研究會を組織し、毎木曜集合懇談會を開催し來れり、而して此會合の指導の任に當るものは前記平貞藏、赤松克麿、新明正道、山崎一雄、新人會の中堅分子にして殊に山崎一雄氏の如きは泉忠と同居せるなど鐵工組合と新人會との關係は相當に濃厚なるを思はしむ、昨年十二月廿八日發行の新人會機關誌「同胞」第七頁鐵工組合概觀中の東京鐵工組合評に曰く

東京鐵工組合

（原文の儘）

大正七年九月に友愛會所屬として創立せられたる最初の職業組合である今は府下大崎を中心として二百餘の組合員を有し、概ね思想及行動に於て進歩せる階段にある粒揃ひの闘士である。松岡駒吉、棚橋小虎君などが理事長であつたが今は幹部を委員制度に改め、柳田君を筆頭として、池郎、三好、泉、中田、飯豊君等全部勞働者が委員になつてゐる。山本、坂東、河田其他の有數の戰士が遊撃隊として控へてゐて近頃の活氣は目覺ましいものがある。組合は之迄毎月五十錢の會費と二圓の入會金を徴收し、規約及其共濟制度に於て模範的な職工組合と云はれてゐたが、近頃會則を改めて會費も三十五錢とし共濟制度を全廢し、基金なき組合として一層潑溂たる活動を試みようとしてゐる。昨年劈頭の園池鐵工所に於ける罷業の成功と、貫徹された要求案は劃時代的（エポックメイキング）なものとして知られてゐるが、最近、中村一徹氏を重役とする日本鐵工株式會社に於ても、生産過剰による失業の危險に瀕した際に、職工が全部組合員なので一人も失業せしめざる要求を貫徹した。古き歴史を有する東京職工組合が常に進取的幾分を失はないのは、吾人の大に意を強くするところである。

右に據るも東京鐵工組合が如何なる思想系統に屬せるか自ら明かなるべく、殊に組合の中堅として「執行委員長」の綽名を冠せられたる泉忠の性格及思想の如何も亦自ら察知するに難からず

△泉の足立工場評

十二月卅日彼の三越呉服店洋服技工罷業に於ける、第二次示威運動をなせる勞働者の中堅は、足立工場の勞働者なり、當日泉は巧に警察官の追跡を逃がれ、三越洋服技工の集合所なる神田松本亭に到り、技工に挨拶して曰く

「私は吾嬬請地の足立工場に勤むる鐵工組合の泉であるが、私は足立工場に入ると共に組合の組織に著手し同工場職工九十名中の大部分を組合員とした、今日は朝集めて勞働歌を敎へ、皆を引連れて三越に行つて痛快に暴れた、私の居る工場は「鬼工場」の名がある、工場主の足立と云ふ男は、奈良女高師の敎諭、東京高工附屬徒弟學校の敎諭を勤め、後足立製作所を開いたのである、五年前までは機械が僅に二臺で職工もほんの少しか居なかつたが、それでも給料が拂へず毎月末に「來月五日までお待ち下され度